

## 支えられて、人は、生きる

(株)ソアラサービス 社長 牛来千鶴ごらいちづる

「ありがとうございます、そう言おうとして、感極まって泣いてしまった。ありがたくて、何度も何度も頭を下げた。二〇〇九年浅春のことである。

広島にクリエイターや起業家のためのビジネス拠点をつくる。それは、二〇〇一年からずっと伝え続けてきた私の夢だった。同じ夢を目指す同志も得、賛同を得るためのイベントを開催し、「ソアラプロジェクト」と名づけた商品開発や、人材育成も始めた。

五年を経、周囲からの期待は高まり、「カタチにせねば！」という使命感のなか、資金集めを始めたが現実には甘くない。成功するかどうかもわからない事業に、簡単に大金を出してくれる企業なんてないし、私のような者が有力企業の決裁者に逢うことすら難しかった。夢を語っているうちは楽しいが、一歩一歩実現に近づくにつれ、厳しい現実におち当た

る。先の見えない焦りから「いったい自分は何をしているんだろう」と、涙する日も。暗いトンネルの中で見えない出口を探して苦しんでいたのは、つい数年前のことである。

リーマン・ショックの影響を受け、資金集めはさらに難航した。だがこれ以上、仲間たちを待たせられない。タイムリミットと感じた私は、資金集めと同時進行で、クリエイターや起業家のためのビジネス拠点「SO@Rプロジェクト」の施工に踏み切った。

しかし、どんなにかき集めても初期費用にあと三〇〇万円足りない。以前から何度もアプローチしていたM社の専務にこれが最後と思っただけで、逢っていただけという。逸る気持ちを抑えつつ飛んで行くと、専務をはじめ、経理、制作、企画の長が私を迎えてくれた。そしてなんと、三〇〇万円の出資を約束してくださった。

ああ、これで工事代が払える。何年も夢見てきた「SO@Rプロジェクト」が実現する！ そう思うと、いろんな思いが込み上げてきた。ここまでともに苦勞してくれた同志たち、イベントといえば労を惜まず協力してくれた仲間たち、親身に相談のつてくれた先輩たち、声援を送り続けてくれたたくさんの皆様、一人ひとりの顔が目に見える。 「ありがとうございます」

感謝の思いは言葉にならず、嗚咽おえつとなり、ただただ頭を下げ続けた。

トップが綴る  
いま伝えたい!  
感謝の心

